

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成16年10月1日(金)6校時

学級 山田町立山田中学校2年4組

男子16名 女子18名 計34名

場所 2年4組教室

指導者 教諭 多田 美由紀

1 単元

第四単元 「古典を楽しむ」扇の的 - 「平家物語」から -

2 単元について

学習指導要領には古典の指導については、「古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」「指導に当たっては、音読などを通して文章の優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては、細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。」とある。これらを受けて1年生は、古典との出会いの場であり、古典とはどういうものかを知ることが学習のねらいであった。昔話「かくや姫」の原点「竹取物語」を題材にして、歴史的仮名遣い、原文と昔話との違いなどを学習した。

2年生は、原文中心に教材を構成してあり、古文や漢文の表現から古人の心に触れ古典を楽しむ学習を目指している。本単元では、古文は物語文学として「平家物語」、随筆として「枕草子」と「徒然草」を、漢文は漢詩を学習する。

「平家物語」は、我が国の代表的な軍記物語である。「扇の的」は、那須与一が扇を見事に射落とす源氏。「平家物語」の根底に流れる個の動きが抹殺される場面を加えることによって、明から暗への転換、戦の非情な現実が描き出されている。きびきびしたなかに哀感の漂う文体で語られ、勇壮な布陣の情景、その情景が与一の心情に焦点化される過程、見事射落とした腕が人を殺すという事実、射殺された男は射損じた時の与一の姿でもある。文体は「和漢混淆文」で表されている。和文脈の柔らかさと漢文訓読調の硬い響きが溶け合って、独特のリズムを作り出している。擬態語・擬音語も多く、対句表現も特徴的である。群読や朗読により、古典の楽しさを味わえる教材である。また、古典の内容について自分とは無関係なものとして眺める態度を溶解して、登場人物の気持ちを想像したり、そのことについて「自分は思うだろうか」というように、古典を自分たちの生活や思いに近づけて考えるようにさせたい。古典ではあっても、現代に生きる人々にも共感する思いがあり、より古典を親しみのあるものとしてとらえることができるであろう。

「枕草子」の学習では、作品を通して、身近な自然の移り変わりを味わい、作者と自分たちの季節感を比較させたり、好きな季節について文章を書かせたい。「徒然草」では、作者の考え方についての自分の考えを書かせてみたい。

「漢詩の風景」については、現実性もあり、表現も優れていて、生徒の心情に触れ、共感をよぶものである。生徒には初めて触れる漢詩にとまどいがあるかもしれない。しかし、音読・朗読する達成感を味わわせたい。漢詩の意味を知って朗読し、朗読して意味を知るという相互の繰り返しを大切にしたい。

3 生徒について

学習に取り組む姿勢は素直である。古典について、昨年は「竹取物語」を学習し、音読や暗唱にも意欲的に取り組んだ。「竹取物語」の終末の部は教科書にはないが、発展学習として取り組み興味をもって学習することができた。2年の前期後半に「短歌・俳句」を学習したが、全ての短歌・俳句を9割以上の生徒が暗唱した。

古典についての事前調査では、古典を好き・どちらかというところ好きという生徒が、90%と多く、音読、暗唱を楽しんでいる生徒も多い。また、古典の広がりの魅力を感じている生徒もいて、昔の人の生活や気持ちを読みとりたい、古典の背景を知りたいという古典の深まりに関心を持っている生徒も多い。10%のどちらかというところ嫌いの生徒は、意味が分からない、興味が無いという古典自体に抵抗を感じている。口語訳を活用し、あらましや登場人物の立場などを確認して学習に入りたい。しかし、2年生での古典学習で、音読を頑張りたいという前向きな意欲が感じられるので、苦手意識を持たないように机間巡視で個別指導を図りながら指導していきたい。音読・暗唱の学習はペア読みを短歌・俳句の暗唱発表で行っているため、継続して行いたい。

事前テストでは、歴史的仮名遣いを直す、助詞の省略、古語の意味は概ね定着できていたが、主語の省略、技法の対句法は理解されていなかった。古典を学習する上で必要な基礎的な内容についてもしっかりと学習させたい。

単元三「心のきずなをとらえる」で小説「ゼブラ」、随筆「字のないはがき」を学習した。「ゼブラ」では主人公ゼブラがウイルスンさんとの出会いを通して、心の回復を図っていく変化を、「字のないはがき」では表現から父の心情を読みとる学習をしてきた。しかし、昨年の古典でも、音読中心の学習を行ってきたので古典での登場人物の心情把握は今回が初めてである。古典の中の登場人物の心情を想像し、当時の人々の思いも今の現代に生きる人々の思いもそう大差はないことに気づかせることによって、古典との隔たりをなくし、興味を持たせていきたい。しかし、深く思考する力が弱く、自分で表現したりすることに抵抗を感じている生徒も多い。「平家物語」は登場人物も多いので、誰の言葉・動作なのかを留意させて理解させたい。登場人物についての考えについては、相対する考えを選択することで自分の考えを書きやすく工夫したい。

4 指導と評価の構想

古典の学習は1年ぶりなので事前テストにより、基礎的な内容の定着の実態を把握したい。「平家物語」についての概略を紹介し冒頭部については暗唱を全員に行いたい。

本文は、「扇の的」までのあらすじをまとめた現代文の部分と原文と口語訳を上下に対照させた部分との二つからなっている。

第1段 平家と源氏とのこれまでの戦の経過説明の部分。(現代文)

第2段 元暦2年2月、与一が扇の的を射ることになったいきさつの説明部分。(現代文)

第3段 与一が見事に扇を射落とす場面。(原文と口語訳)

第4段 与一が平家の男を射倒す場面。(原文と口語訳)

第1から2段は、範読し状況を確認させて、あらましをpushさせたい。第3, 4段は、まず音読、群読ができるように練習し、ペア練習によって学習状況の把握を図りたい。音読については、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直した教科書を使い、その後現代仮名遣いを消した原文プリントで練習させ、原文ですらすら読めるようにさせたい。

第3,4段の原文と口語訳と照らし合わせながら、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す
助詞の省略 主語の省略 表現の工夫などを学習プリントを活用し基礎的内容の定着を図りたい。

内容については、第3段では、「なぜ、与一は死を覚悟して射ようとしているか。」「あなたが与一の立場なら、射るのか射ないのか」という問いを通して与一の心情に迫りたい。また、「なぜ平家側がふなばたをたたいて感じたり。」としたのか、敵ながら与一を讃えた平家の立場を確認したい。「あなたが平家側の立場なら感嘆しますか。しませんか。」と古人の行動について話し合うことによって古人の心情を読みとりたい。第4段では、「なぜ平家側の年五十ばかりなる人が舞いを舞ったのか」を話し合いたい。

本時では、ゆさぶりとして那須与一の略歴、家族構成を紹介する。与一の兄弟が十一人おり、与一がこの「扇的」を射たことによって那須氏の総領（世継ぎ）の地位と領地として、五カ国内の荘園を与えられたことを教え与一の功績を紹介したい。

「扇的」の最後の授業なので、音読・群読を行い、場面を確認したい。「年五十ばかりなる男を射よ。」と命令された時の与一の気持ちを想像し学習シートに書かせたい。書けない生徒のために、選択してから理由を書けるように工夫したい。正解の答えはないので、各自が想像して古人に思いをはせることが大切であると考え。与一の妙鼓を讃えて敵ながら舞いを舞った平家の老武者に対して、与一自身も命令と暗い本心は射倒したくなかったのではないか、しかし、命令に逆らうこともできないまた、射倒すことができなければ与一自身の命もなかったであろうとい原文に書かれていない与一の苦悔を想像することにより、古典の広がりに興味を抱いて欲しいと願う。また、「あ、射たり。」という人、「情けなし。」という人、それぞれの思いについて触れ、自分ならどちらの立場か、古人の考えを読みとって自分の考えを持たせたい。いずれも正解はないので、自分の考えに理由をつけて想像させ、発表しあう中で他の意見を聞き、自分の考えに役立たせ、新たな見方ととらえ方で古人の心に迫りたい。

最後に非情さに徹する義経であるが、戦の世界での非情さが「平家物語」を貫くものでもあることを伝えながらも、「敦盛の最後」などにも情けのある話があることを教え、関心を持たせたい。

5 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

古典の中に描かれている古人の風俗、習慣、生活、考え方、感じ方をとらえ、時代を超えても変わらない人間の普遍的な。ものについて感じ取ろうとする。

(2) 話す・聞く、書く能力

筋の展開に対する自分の考えや筆者の考えに対する自分の考えを書き発表する。

(3) 読む能力

発音や言葉遣い、助詞や主語の省略などに留意し、古文のリズムを味わいながら音読できる。登場人物の思いを想像して読むことができる。

(4) 言語についての知識・理解・技能

古文や漢文の特有の表現や語彙、名句・名言、故事成語の知識を獲得できる。

6 指導と評価

単元名「古典を楽しむ 「扇的(平家物語から)」指導計画

1 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・古典の中に描かれている古人の風俗、習慣、生活、考え方、感じ方をとらえ、時代をこえても変わらない。 ・人間の普遍的なものについて感じ取るうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の展開に対する自分の考え方や筆者の考え方に対する自分の考え方を書き発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や行動、筋の展開に対する自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の特徴に注意して、工夫しながら音読する。 ・現代語訳や脚注などをもとに、情景や筋の展開、人物の心情などを的確にとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文特有の言い回しや語彙、歴史的仮名遣いを理解する。 ・古文や漢文の特有の表現や語彙、名句・名言、故事成語などを理解する。

2 単位時間ごとの学習内容・評価規準

時	おもな学習内容	学習活動における具体的評価規準				
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の学習について思い出し、新たに確認する。 ・「平家物語」について成立年代や作品の特徴、文学的価値などの説明を聞き理解する。 ・「平家物語」冒頭部を読み、内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心をもって古典の学習に取り組む。 			<ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の冒頭部を読み内容を理解する。 	
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・「扇的」の現代文を読み、内容を理解する。 ・「扇的」の一の原文を読み、語り物独特のリズムになれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで声を出して読もうとする。 				
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・「扇的」の一の原文を読み、基礎内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで声を出して読もうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い、主語・助詞の省略、古語の意味など理解し古文独特のリズムに注意して音読する。 	
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・「扇的」の二の原文を読み、基礎内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで声を出して読もうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い、主語・助詞の省略、古語の意味など理解し古文独特のリズムに注意して音読する。 	
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ・「扇的」の三の原文を読み、基礎内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで声を出して読もうとする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣い、主語・助詞の省略、古語の意味など理解し古文独特のリズムに注意して音読する。 	
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちについて話し合い、武士たちの姿にせまる。 ・場面を考え、工夫しながら音読をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを想像して音読する。 	

第7時	・「枕草子」の成立年代、作者、歴史的価値などを理解する。 ・平安時代の貴族の生活、宮廷文学について説明する。 ・「枕草子」の範読を聞き、読む。			説明を聞きながら、理解したことなどをノートにまとめる。		
第8時	・「枕草子」の原文を音読する。それぞれの季節の良さを確認しながら、清少納言のものの方、考え方、感じ方をとらえる。	・すすんで音読する。 ・いろいろなものの感じ方を知る。		・清少納言のものの方や感じ方について、自分とどう違うか書いてみる。 ・自分の思う季節の良さを書いてみる。		
第9時	・「徒然草」の成立年代、作者、歴史的価値などを説明する。 ・範読を聞いて原文を読めるようにする。				範読を聞いて原文が読めるようにする。	
第10時	・「徒然草」を音読する。 ・原文を脚注など参考にしながら現代語訳する。			脚注、説明などをてがかりに原文を現代語訳する。		

7 本時について

(1) 本時の目標

登場人物の思いを想像して読むことができる。(読むこと)

(2) 判断基準と評価場面

評価規準	評価場面	判断基準		C:「努力を要する」 生徒への手だて
		A:「十分満足できる」	B:「大むね満足できる」	
登場人物の思いを想像して読むことができる。	与一の気持ちを書く場面 「射たり」 「情けなし」 の自分の考えを書く場面	「年五十ばかりなる人を射よ」と命令された時射た後の与一の思いを与一の立場を想像して書くことができる。 それぞれの立場に立って自分の考えを書くことができる。	「年五十ばかりなる人を射よ」と命令された時射た後の与一の思いを想像し書くことができる。 どちらかの立場を選び理由を書くことができる。	もし断ったり、射ることができなかつたりし たときはどうなるのか 与一の立場を確認させる。 射ることはたやすいことか、またなぜ男が舞ったのかを確認させる。

(3) 指導と評価の計画

	学習内容	指導と評価(配慮事項)
導入 3分	<p>1、学習家産の把握(ゆさぶり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典についての把握 ・本時への意欲喚起 	<ul style="list-style-type: none"> ・与一の兄弟数を紹介、与一が扇の的を射た褒美として、源頼朝より那須氏の総領(世継ぎ)の地位と領地を与えられたことを紹介する。 ・与一の気持ちについて学習することを把握し、学習意欲を喚起させる。 ・「平家物語」を全員で音読・群読する。 ・学習課題を提示し、自己評価カードに書かせる。
展開 39分	<p>登場人物の思いを想像して読もう。</p> <p>2、課歴追求1(指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらましを押さえ、登場人物を確認し、それぞれの立場を確認する。 <p>3、学習状況の把握1(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与一の気持ちについて想像し書く。 ・発表を聞き、他の意見を聞き考えを深める。 <p>4、課題追求2(指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古人の考えに対して、自分の考えをまとめて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を確認し、平家が沖に源氏が陸にいることを確認する。 ・登場人物を確認し、源氏側か平家側なのか確認する。 ・義経と与一の関係を理解させる。 ・与一が扇を射たときの両者の反応を確認する。 ・「年五十ばかりなる男」はなぜ舞いを舞ったのか、その姿を与一はどのような気持ちで見ていたか確認する。 ・与一に「射よ」と命令をしたのは誰か確認する。 <p>【評価の観点(読む能力)】</p> <p>評価規準 ・与一が「年五十ばかりなる男」を射よと命令された時の気持ちを学習プリントに書かせる。</p> <p>評価方法 ・学習シートに書けているかで判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与一が扇の的を射たときの両軍の感嘆した様子と老武者を射た時の反応を比較し、「あ、射たり。」と言った気持ち、「情けなし。」と言った気持ちを確認し、自分ならどちらの立場の気持ちかを学習プリントに書かせる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【おおむね満足できる状況の生徒へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平家物語」の感想を書かせる。 ・登場人物の気持ちを想像して読ませる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【努力を要すると判断した生徒へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように書けばいいのかでつまづいている生徒には 聞いて考えを引き出し言った内容を書くようにさせる。 ・どちらの立身をとればいいのか迷っている生徒には また今度も当たってすごいぞという与一をほめる気持ちなのか敵ながら与一をほめたのに射倒さなくてもいいのではないかというどちらの立場か確認する。 ・「あ、射たり。」を選んだが理由がわからなくてつまづいている生徒には なぜほめたのかどのくらいの距離なのかを確認する。 ・「情けなし」を選んだが理由がわからなくてつまづいている生徒には なぜ男は舞ったのか、舞っている男は敵だということを確認させる。 </div>

終 末 8 分	5、学習状況の把握 2	・自分の考えを発表させ、与一の苦悩や「情けなし。」という考え等が現代に生きる私たちにも共感できるものであり、それらが古典に親しむことであることを気づかせる。
	6、学習の振り返り	・「平家物語」の生と死、戦の非情さが描かれていることを理解させ、「敦盛の最期」なども紹介し、興味を抱かせる。 ・自己の学習の状況を振り返り、自己評価させ次時の意欲を持たせる。 ・音読する。

8 事後の評価

(1) 本時の授業後の評価

A・「年五十ばかりなる男」は自分の妙技に感察して舞いを舞い、敵ながら自分をほめてくれたようであれしかった。大将である義経に「射よ。」と言われて射たくなかったが命令に逆らえずに射ることになって残念である。しかし、もし命令に背いたり、射ることができなかつたときは、自分の命もなかつたであろう。

・「あ、射たり。」を選んだのは、遠い距離なのに2度までも与一が射ることができ素直にほめたのだと思う。

・「情けなし」を選んだのは、敵ながら与一の妙技を褒めて舞いを舞っているのに何も射殺さなくてもいいのではないか、情けのないことであると自分も思った。

B・与一がどういう気持ちなのかの選択する事はできたが、自分なりの表現で書くことができないが理由を話すことはできる。

・「あ、射たり。」「情けなし。」を選ぶことができたが、自分なりの表現で書くことができないが理由を話すことはできる。

C・与一の気持ちや「射たり。」「情けなし。」の選択を選ぶこともできない。

(2) 観点別学習状況の総括

ア 国語への関心・意欲・態度

授業の観察、古典の暗唱、発言、発表、学習シートへの取り組み、課題の内容への取り組みから総括する。

イ 話す・聞く能力

観察、発表などの取り組みから総括する。

ウ 書く能力

学習シート、感想、単元テスト、定期テストから総括する。

エ 読む能力

観察、音読、発言、発表、学習シート、単元テスト、定期テストから総括する。

オ 言語についての知識・理解・技能

漢字テスト、小テスト、単元テスト、定期テストから総括する。

板書計画

扇の的 「平家物語」 から

今日の目標 登場人物の思いを想像して読もう

源氏側 (陸)

大将 源義経

「射よ。」

平家側(海)

那須与一

年五十ばかりなる男

「射よ。」

・命令されたから

・扇もあてたから男も射る」とができるから

・もし命令を断ったら命がない

・もし射ることができないと自分も

命がないから絶対射よう

「射たくない。」

・自分のことをほめて舞いを舞ってくれているのに

殺したくない

・今度はあたらないかもしれないから射たくない

「あ、射たり。」

・遠い距離から良くあたったな。

・さすが与一の弓の腕前は素晴らしい。

・戦の間だから仕方がない。命令ならば射なくてはならない。

「情けなし。」

・与一の腕前をほめて舞いを舞っているのになんて心ないことをするのだ。

・風流を楽しむ余裕はないのだろうか。

・なにも人を殺すことはないのに。

義経 戦とは非情なもの 「平家物語」

「敦盛の最期」

第6時 月 日 () () 学習内容：扇的の登場人物の思いを想像して読む。

今日の目標 登場人物の思いを想像して読む。

「、与一が「年五十ばかりなる人」を射よと命令された時どんな気持ちだったのだろうか。
与一は射ようと思った・与一は射たくなかった。

(理由)

【メモ】友達の発言を聞いて(なるほど、それはちがう)などと感じたことを書きなさい。

「、あなたなら、年五十ばかりなる男を与一が射た時、どちらの言葉を言いますか。

「あ、射たり。」「・、情けなし」

(理由)

【メモ】友達の発音を聞いて(なるほど、それはちがう)などと感じたことを書きなさい。

「平家物語」学習しての感想

自己評価

先生から	与一の思いを想像することができましたか。	A・B・C・D
	古人の考えについて自分の考えを持てましたか。	A・B・C・D
	友達の意見を聞いて自分の考えが深まったり、広げられましたか	A・B・C・D
頑張ったこと 感想・反省		